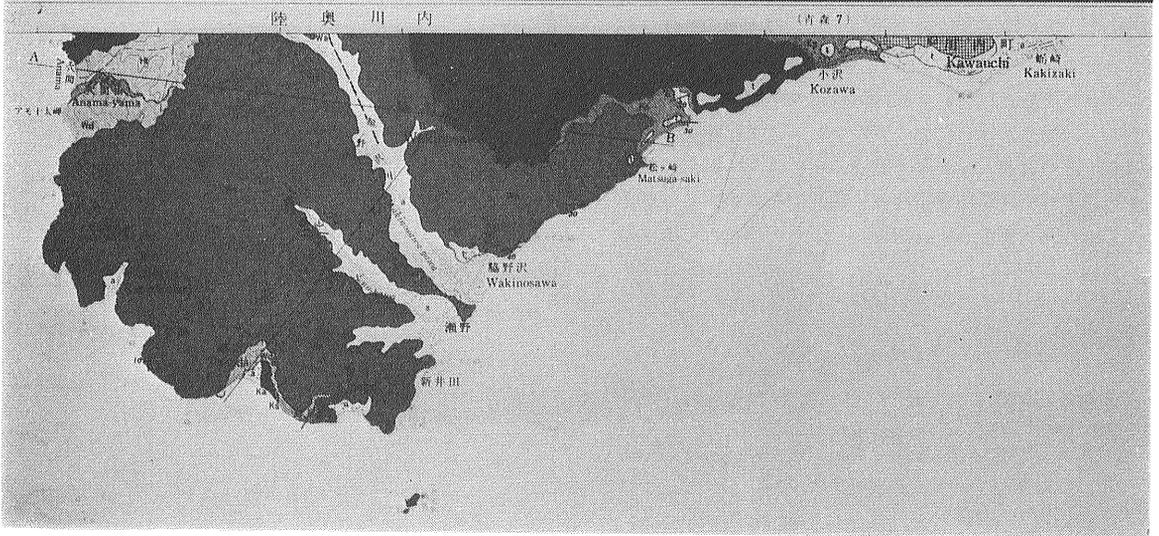


脇野沢

WAKINOSAWA

昭和34-35年



5万分の1地質図幅の新刊

脇野沢 WAKINOSAWA

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 上村不二雄(地質部)
発行 工業技術院地質調査所
取扱先 地学文献センター(0423) 62-5050

- 脇野沢地域は 陸奥湾をはさんで 下北半島側と夏泊半島側とに陸域が分かれている。 そのうち夏泊半島側は北端の大島とその南がわずかに含まれている。 両地域ともおもに新第三紀の地層と火山岩類が分布している。
- 下北半島側には檜川層・小沢層および脇野沢安山岩類が分布している。 檜川層は北の陸奥川内地域(昭和50年度に同じ筆者により図幅が発表されている)に広く分布しているがこの地域では分布はせまい。 この地域におもに分布しているのは 小沢層のなかの安山岩と脇野沢安山岩類である。 夏泊半島側には小沢層に相当する間木層と石英安山岩が分布している。
- 脇野沢安山岩類はおもに安山岩の凝灰角礫岩と溶岩からなっている。 これらは同じ下北半島の易国間安山岩類・泊安山岩質集塊岩などとともに 北海道西部に広く分布している。

黒松内型安山岩集塊岩に相当するものである。 筆者は凝灰角礫岩としているものの少なくとも一部は 自破砕溶岩であるとしているが 最近黒松内型集塊岩の大部分は水中溶岩の一種であるとの見解が報告されている。 海岸の好露頭に恵まれたこの地域は この種の火山岩類の成因や形態を観察するうえで好適であろう。

- 陸域より遙かに広い陸奥湾の海域について 金属広域調査報告書から湾内の音波探査の結果による海底構造図が引用されている。 筆者の下北海岸断層の伸びが 音波探査でも確かめられている。 同様に陸域の重力図も引用されている。
- この図幅と研究報告書には両図を含めて金属広域調査の結果が反映されている。 広域調査の結果は必ずしも広く普及していないので便利である。 しかし利用者は 前記の陸奥川内図幅と研究報告書とともに 金属広域調査報告書(下北地域)昭和42-45年度と 精密調査報告書 昭和46-47年度を併読することを勧めたい。

地質ニュース	第269号	1月号
昭和52年1月1日	定価 ¥ 380	〒 50
編集	発行	
発行人	工業技術院 地質調査所	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (265) 0 9 5 1 (代表)	
	振替口座 東京 3 2 4 6 6	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4 8 6 6	
印刷所	共同印刷株式会社	